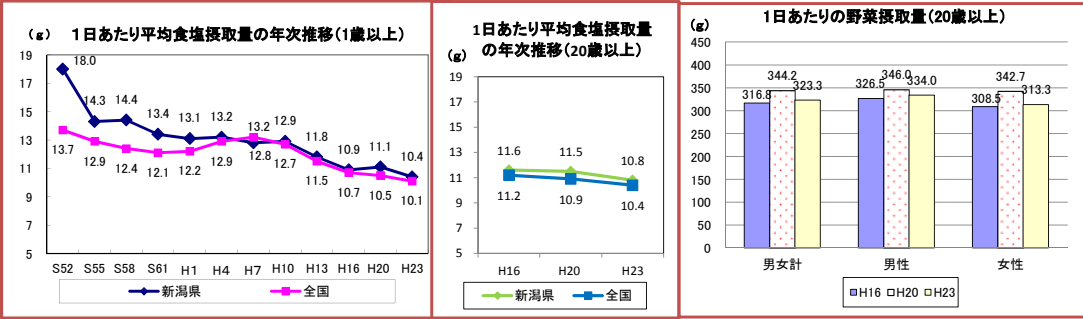


# 第2次新潟県食育推進計画概要版

## —新潟県の状況—

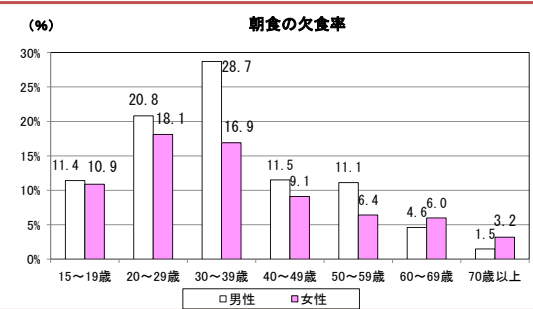
### 食塩摂取量・野菜摂取量

○食塩摂取量(成人)は徐々に減少傾向にはありますが、目標値である10gに達せず、全国平均を上回っています。  
○野菜摂取量(成人)は、目標の350gを下回っており、323.3gとなっています。平成20年に比べ、摂取量は減少しています。



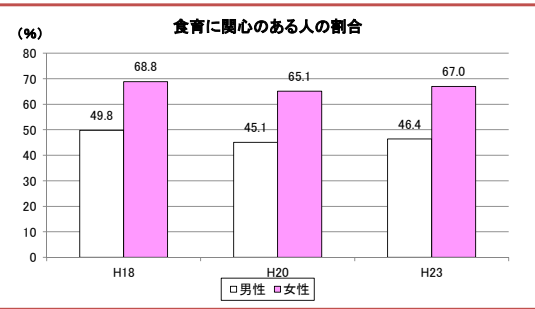
### 朝食の欠食率

○朝食を食べない人は、男性では30歳代が28.7%、女性では20歳代が18.1%と最も高く、20～30歳代の欠食が多くなっています。



### 食育への関心度

○食育に関心をもっている人は、女性は約6割強、男性は5割弱で推移し、男性の関心が低い結果でした。



### 食育ボランティア登録

○食育に関する専門的知識・技術(資格、経験等)を持ち、郷土料理の調理実習や農業体験といった学校や地域での食育実践活動を支援する「食育ボランティア」が県内各地で活躍しています。

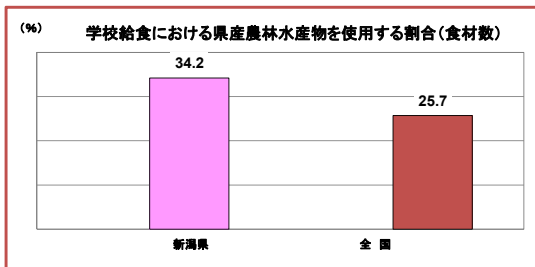
食育ボランティア登録数(H24.11現在) (個人:人 団体:団体数)

登録人数	登録分野(複数登録)			
	食文化・郷土料理	農業等生産	栄養・健康管理	その他
個人 82人	50	24	35	12
団体 10団体(2,650人)	9	2	3	2

出典:県食品・流通課まとめ

### 県産農林水産物の供給・消費の拡大

○学校給食の県産農林水産物を使用する割合(食材数)は、34.2%で全国より高くなっています。



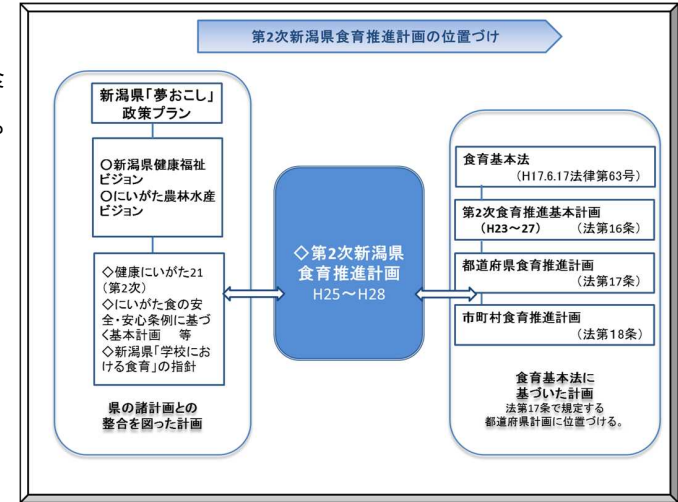
## 計画の基本的な考え方

### 策定の背景

○本県では、平成19年に「新潟県食育計画」を策定し、家庭、地域等の様々な組織と連携しながら取組を進めてきました。  
○その結果、新潟の食の理解と継承につながる環境は整備されつつありますが、肥満や朝食欠食等が増加するなど、課題が残されていることから、更に一層健康づくりの基盤となる食育の推進を目指し、「第2次新潟県食育推進計画」を策定するものです。

### 計画の位置付け

○食育基本法第17条で規定する都道府県食育推進計画として、また、新潟県「夢おこし」政策プラン、新潟県健康福祉ビジョンやにいがた農林水産ビジョンなど、他種関連計画と整合性を有する個別計画です。



### 計画期間

○平成25年度を初年度、平成28年度を目標年度とする4か年計画とします。(指標の目標設定は「健康にいがた21(第2次)」と同様、10年間を見据えた設定を行った上で、平成28年度までの目標値としています)

### 計画の推進体制

○食育活動は家庭での営みを基本とし、地域社会がその活動をサポートする役割を担うことで、食育活動につながるという考えに基づき、食育活動を県民運動として推進していきます。  
○食育の推進を実効性のあるものとしていくためには、県民、関係者、行政が協力して、それぞれの役割を果たすことが期待されます。

### 進行管理

○計画の進捗状況を客観的に把握するため、目的ごとに設定した目標(指標)について、原則として毎年実績を把握します。  
○「県民健康・栄養実態調査」等により、県民の健康や食生活等の状況を把握・分析し、食育の進捗管理を行います。また、必要に応じて食育関係団体等と連携・協働し、より実態を反映した調査を実施し、実態の把握に努めます。

### 食育とは?

- ①生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの
  - ②様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること
- (食育基本法)



### お問い合わせ先

新潟県福祉保健部 健康対策課 健康食育推進係  
新潟市中央区新光町4番地1  
TEL:025-280-5198  
E-mail:ngt040240@pref.niigata.lg.jp

詳しくはこちらをご覧ください。  
<http://www.kenko-niigata.com/21/>

健康にいがた21 検索

# 第2次新潟県食育推進計画の基本的な方向

## —第2次新潟県食育推進計画の骨子—

夢おこし政策プラン

健康寿命の延伸  
平均寿命の延伸

### 生涯にわたる健康づくり

○望ましい食の実践ができるよう、乳幼児期から高齢期まで展開する食育活動

### 家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進

○家庭や地域において食の体験「作る」「食べる」ことで食や生活に関する基礎の習得を促す食育活動

### 新潟の食の理解と継承

○地域の農林水産業等を理解し、感謝の心や郷土愛を醸成する食育活動

## 現状と課題

### ○朝食の欠食

・小学校5年生は改善傾向ですが、20～30歳代男性の欠食する割合は増加傾向にあります。

### ○野菜摂取量(成人)、食塩摂取量(成人)

・目標値(野菜:350g以上/日、食塩:10g未満/日)には達していません。

### ○学校給食における県産農林水産物の使用割合

・全国より高い割合です。

### ○食育への関心度

・食育に関心をもっている人の割合は、横ばいで推移しています。女性に比べ、男性の関心が低い傾向にあります。

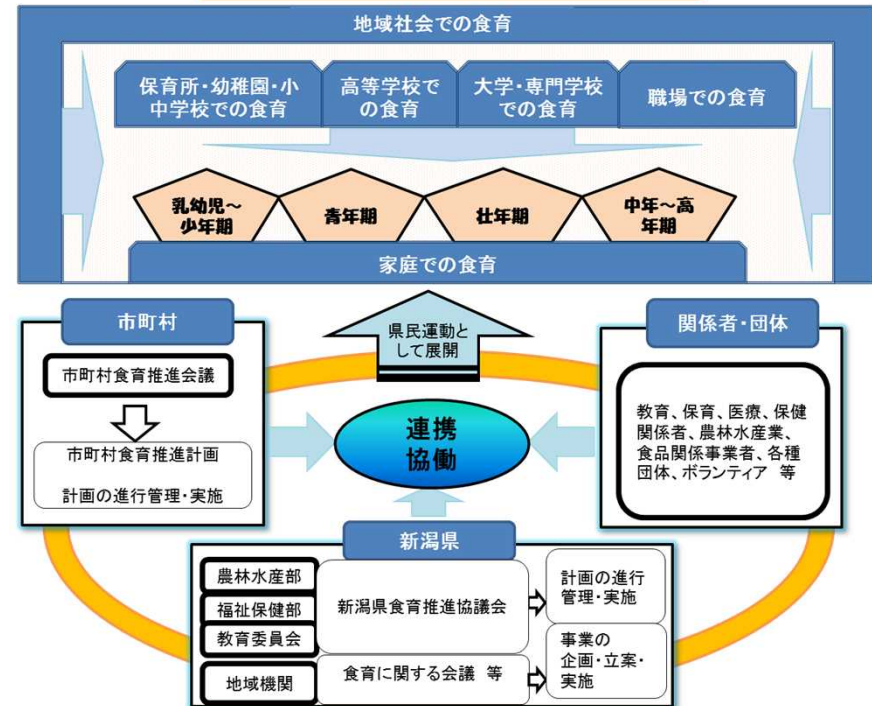
### ○適正体重の維持

・男性の肥満が増加傾向、若年女性では約2割がやせとなっており、適正体重を維持する人が減少しています。

### ○食育の推進に関わるボランティア数

・当初目標値(1,712人以上)を超えて増加しています。

## 第2次新潟県食育推進計画の推進体制



# 第2次新潟県食育推進計画の主な指標及び施策の展開

## 目標

正しい生活リズムで主食・主菜・副菜をそろえた日本型食生活を実践する人を増やす



重点課題	主な指標	数値目標			
		現状値 (H23)	目標値 (H28)	長期目標値 (H34)	
生涯にわたる健康づくり	○主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合の増加(成人)	(H24) 62.1%	69%以上	80%以上	
	○ふだんの食事における減塩の取組状況(成人)	(H24) 64.8%	70%以上	80%以上	
	○食塩摂取量の減少(成人)	10.8g	10g未満	9g未満	
	○野菜摂取量の増加(成人)	323.3g	350g以上	350g以上	
	○20～60歳代男性肥満者の割合の減少	30.2%	30%以下	29%以下	
	○適切な栄養管理を行う特定給食施設の増加(管理栄養士・栄養士を配置している施設の割合)	55.9%	65%以上	80%以上	
	○災害時に対応できる食料品を備蓄している県民の割合の増加	H25把握予定	現状より5%増	現状より5%増	
家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進	○食育に関心を持っている県民の割合の増加(成人)	57.2%	70%以上	90%以上	
	○朝食を欠食する県民の割合の減少	20歳代	男性 20.8%	20%以下	19%以下
		女性 18.1%	18%以下	17%以下	
	○朝食を欠食する県民の割合の減少	30歳代	男性 28.7%	28%以下	27%以下
		女性 16.9%	16%以下	15%以下	
新潟の食の理解と継承	○県から食の安全・安心についての情報が十分に提供されていると感じる人の割合の増加	38.2%	50%	—	
	○学校給食における県産農林水産物を使用する割合(食材数)の増加	34.2%	35.0%	—	
	○学校給食における国産農林水産物を使用する割合(食材数)の増加	79.6%	83.0%	—	
	○食育の推進に関わるボランティア数の増加	1,714名	3,000名	—	
	○環境保全型農業に積極的に取り組む「エコファーマー」の累計新規認定件数	16,744人	20,000人	—	
	○学童等体験活動参加者数の増加(中山間地域における農山漁村体験＝グリーン・ツーリズム誘客数)	199,068人・日	24万人程度を目指す	—	

## 基本理念

食を通じて、健全な心身を培い、豊かな人間性を育む

## キャッチフレーズ

にいがたの食で育む、元気・長生き・豊かな心

基本理念に基づく取組